

# 海外出張報告書

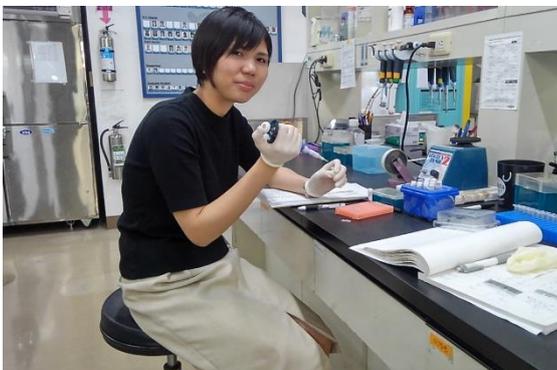
2017年10月13日

出張者氏名	本井あや
所 属	農学部動物生理学研究室
出張期間	2017年9月7日～2017年9月15日
出張先	Seoul National University Lab of genetic animal engineering
目 的	CRISPR-Cas9 システムを用いた遺伝子改変技術の習得

## 内 容

アルツハイマー病やパーキンソン病などが代表例である神経変性疾患は、これまで家族性疾患の原因遺伝子として多く発見されておりますが、この疾患の約 9 割が孤発性であります。そこで家族性疾患と孤発性疾患の共通事象である神経細胞体死に先立って生じる神経軸索変性に注目し、ショウジョウバエをモデル動物として研究を行っています。研究を推進する上で、CRISPR-Cas9 システムを用いた遺伝子欠失ショウジョウバエを作成し解析したいという発想に至りました。特別招聘教授であるソウル大学のハン教授のグループはゲノム編集による遺伝子改変動物の作製を盛んに行っています。そこで、9日間の日程でハン教授の研究室に滞在し、CRISPR-Cas9 システムを用いた遺伝子改変技術を学んできました。

短期間でありましたが、海外の研究室で学ばせていただいたことは、技術面だけでなく研究に対するモチベーション面においても良い刺激になったと感じました。また、快く迎えてくださったハン教授や研究室の方々との交流を深められたことも研究室に直接赴いて学べる研修ならではのであったと思います。



ソウル大学研究室での実験



Han 教授と研究室の方々とのハイキング